

金匱要略も読もう 第1版第2刷訂正箇所

- p28 条文一―28 湯スル者ニ猪苓 → 湯スル者ハ猪苓
- p38 条文二―13 桂二両皮ヲ去ル → 桂枝二両皮ヲ去ル
- p41 上段 11 行目 上熱下寒 → 上寒下熱
- p82 上段 5 行目 瞿麦 → 瞿^{くばく}麦
- p100 条文五―7 沐シ了リテ → 沐シ^{オツ}了リテ
- p131 下段後ろから 6 行目 失精が長期にわたり、陰陽両虚の虚勞に至ると、
→ 失精が長期にわたると、陰陽両虚して虚勞に至り、
下段最終行 男女とも精を洩らして → 男女ともさらに精を洩らして
- p162 条文七―12 久久ニ米粥ノ如キ → 久久ナレバ米粥ノ如キ
- p168 下段最終行 肺氣上逆せず寒飲貯留。 → 肺氣ハ上逆せず寒飲ガ貯留。
- p169 上段 7 行目 痰飲上逆で咳唾。 → 痰飲ガ上逆して咳唾。
- p174 条文八―2 皆驚ヨリ恐レテ之ヲ得。 → 皆驚恐ヨリ之ヲ得。
- p209 上段 2 行目 復タ故ノ如キハ此レ寒為リ」 → 復タ^{モト}故ノ如キハ此レ寒為リ」
上段 3 行目 満腹が出現・増減するのは → 満腹が出没・増減するのは
- p240 上段 9 行目 用も失調しないので、 → 用ハ失調しないので、
上段最終行 氣を発します。 → 氣を散じます。
- p248 下段 5 行目 溜飲と伏飲 → 留飲と伏飲
下段 8 条 溜飲が → 留飲が
下段 9 条 溜飲が → 留飲が
下段 10 条 溜飲が胸中にある。 → 留飲が胸中にある。
下段 11 条 膈上に痰飲が伏在 → 必ず膈上に痰飲が伏在
- p249 上段 15 条 痰飲病の治療原則は水を → 痰飲病の治療原則は痰を
- p250 下段 38 条 苓甘五味姜辛湯で主治する。 → 苓甘五味姜辛湯で温肺散寒する。
下段 39 条 その水飲を去る。 → 化痰止嘔する。
下段 40 条 で主治する。 → で降肺祛痰する。
- p255 条文十二―8 其ノ人背寒冷スルコト水大ナルガ如シ。
→ 其ノ人背寒冷スルコト手大ノ如シ。
- p263 条文十二―24 虚スル者ハ即チ愈ユ、 → 虚ナル者ハ即チ愈ユ、
- p264 上段 5 行目 「虚スル者ハ即チ愈ユ」 → 「虚ナル者ハ即チ愈ユ」
上段 8 行目 辛寒の石膏は「温藥を以て之を和す」という治則に反しているのでこれを
→ 辛寒で氣分清熱の石膏はこれを
上段 10 行目 軟堅散結の芒硝に替えて藥性を緩和し、
→ 軟堅散結・清熱消腫に働く芒硝に替えて藥能を変更し、

- 上段 12 行目 下痢の兆候が現れたら → もし下痢の兆候が現れたら
- p273 条文十二-37 其ノ面翕熱シテ酔状ノ如シ、 → 其ノ面翕熱シテ酔状ノ如ク、
上段最終行 子甘草湯ヲ与エ、 → 甘草湯ヲ与エ、
- p274 条文十二-38 衝氣即低シ、 → 衝氣即低ス、
- p276 条文十二-41 大黃ヲ加エ以テ之ヲ利ス。 → 大黃ヲ加エ以テ之ヲ利セ。
- p277 上段 4 行目 「其ノ面翕熱シテ酔状ノ如シ」 → 「其ノ面翕熱シテ酔状ノ如ク」
- p285 上段 6 行目 それに従うと本篇は血淋と → それに従うと本篇は氣淋・血淋と
- p286 上段 14 行目 裏陽虚で氣が上に → 肺陽虚で氣が上に
- p290 上段 7 行目 [淋病の証と治] → [淋病の証候]
- p300 10 条 少陰の脈（尺脈）が → 10 条 少陰の脈（太溪脈）が
- p303 上段 5 行目 水腫病になります。 → 痰飲病になります。
条文十四-1 四肢頭面腫レテ久シク愈エズ、 → 四肢頭面腫レテ久シク愈エザレバ、
- p304 下段後ろから 3 行目 「ズ、必ズ癰膿ヲ致ス」 → 「ザレバ、必ズ癰膿ヲ致ス」
- p306 下段 12 行目 [風水証と太陽傷寒] → [水氣病と太陽傷寒]
- p309 上段 十四-6 → 条文 十四-6
- p310 下段 4 行目 寸口の脈が浮で遅の「沈」という脈状の意味です。
→ 全身で三部九候の脈を取ったとき、寸口の脈が浮で遅の「沈」という脈状を呈するという意味です。
- p311 下段 5 行目 腎氣を表す尺脈です。 → 腎氣を表す腎經太溪穴の脈です。
下段後ろから 4 行目 沈脈が出現すれば、 → 少陰の脈が沈であれば、
- p312 条文十四-12 其ノ人消渴シ、 → 其ノ人消渴ス。
下段 4 行目 作用が失調して小便不利と → 作用だけが失調して小便不利と
下段 5 行目 さらに触れにくくなった → さらに触れにくい沈絶になった
- p316 下段 1 行目 を「血分」と定義して → を『金匱要略』では「血分」と定義して
条文十四-21 小便利サズ、 → 小便利サズ。
- p317 上段 5 行目 脇下急痛ス、 → 脇下急痛ス。
上段 7 行目 其ノ病除カレズ、 → 其ノ病除カレズ。
下段後ろから 4 行目 て、陽衰陰盛の状態に → ると、陽衰陰盛の状態に
- p318 下段 2 行目 が水邪によると → が腎陽虚の水邪によると
下段 4 行目 上衝によるものですから、 → 上衝によるものなので、
下段 7 行目 治療は完璧です。 → 治療は完璧だったのです。
下段 8 行目 水氣病であり、 → 水氣病で、
下段 9 行目 続発した標証です。 → 続発した標証あるいは新病です。
下段 12 行目 標証を先に治すこと → 標証や新病を先に治すこと
下段 14 行目 出ています。 → 出ていました。

- p319 下段 条文 十一-23 → 条文 十四-23
- p324 条文十四-29 汗出デ已リ、 → 汗出デ已レバ、
 条文十四-29 軽キ者ハ久々ナレバ → 軽キ者ハ久久ナレバ
- p326 下段 10 行目 「久シク愈エズ、 → 「久シク愈エザレバ、
 下段後ろから 5 行目 「汗出デ已リ、 → 「汗出デ已レバ、
- p329 上段 9 行目 [虚寒証]の気分病 → [気分病]の証と治
- p332 下段 6 行目 [治方] 防已茯苓湯。(24 条)
 下段 7 行目 [証候] 皮水で厥す。
 下段 8 行目 [治方] 蒲灰散。(27 条)
 下段 10 行目 無熱の者は甘草麻黄湯。(25、33 条)
 下段 11 行目 脈沈脈 → 脈沈脈 (1 条)、沈緊 (21 条)、沈小 (26 条)。
 下段 13 行目 [治方] 麻黄附子湯あるいは杏子湯。(26 条)
- p333 上段 3 行目 ず癰腫を生じる。 → ないと癰腫を生じる。
 上段 5 行目 水湿鬱滞には → 寒湿鬱滞には
 上段 6 行目 五臓水 → 五臓水 (五水)
 上段 13 行目 小便不利、胸中痛、気が咽喉に上衝する者は、腎気上衝を先治し、後に水病を治す。
 → 小便不利し、胸中痛み、気が咽喉に塞噎する者は、腎気の上衝を先に治し、後に水病を治せ。
 下段 2 行目 腎と三焦の気血不足から → 腎と三焦の血行不良から
- p336 上段 3 条 穀疸の前兆である。 → 穀疸である。
- p338 上段 2 行目 湿熱発黄・火劫発黄・ → 湿熱発黄・湿盛発黄・火劫発黄・
 下段 4 行目 黄疸との → 黄疸と黄汗は別物でその
- p339 条文十五-1 四肢煩ニ苦シミ、 → 四肢煩ニ苦シム、
 上段後ろから 2 行目 ここではその意味 → ここでは鬱閉の意味
- p340 条文十五-2 濁気下流スレバ小便通ゼズ、 → 濁気下流スルモ
 条文十五-2 熱膀胱ニ流レレバ身体尽ク黄ス、 → 熱膀胱ニ流ルレバ身体尽ク黄ス、
 下段後ろから 4 行目 寒ヲ被リテ熱膀胱ニ流レ → 寒ヲ被リテ熱膀胱ニ流ル
- p356 上段 12 行目 脈浮の者は吐かせ、 → [治法] 脈浮の者は吐かせ、
- p360 2 条 回復すると鼻血は止まる。 → 回復すると鼻血は自然に止まる。
 3 条 (鼻血) する人は太陽病の表証、 → (鼻血) する人は太陽経の表証、
 3 条 陽明の裏証である。 → 陽明経の裏証である。
 4 条 眼球が不動で停止し、 → 眼球が動かず停止し、
 10 条 大遅の者は、瘀血である。 → 大遅の者は、瘀血の証候である。
- p362 下段 3 行目 部位で瘀血によって生じる → 部位で瘀血に関連して生じる

- 下段後ろから2行目 動脈という、拍動が → 動脈という拍動が
- 下段最終行 円く感じられるものの一定しない → 円く感じられるけれど一定しない
- p363 下段1行目 腎の虚熱は肝に及び、 → 腎の虚熱は肝に波及し
- p364 上段4行目 この季節の衄血は外感の太陽病によるものが多く、
→ この季節の衄血は外感病で太陽経からのものが多く、
- 上段6行目 陽明の闔（閉）で裏の → 陽明の闔（閉）からで裏証の
- 上段最終行 陰血が不足しているので、 → 陰血が不足してくるので、
- p369 上段後ろから3行目 [心下悸—半夏麻黄丸] → [痰飲の心下悸—半夏麻黄丸]
- p373 下段6行目 して、動脈を呈す。 → して、搏動が一定しない動脈を呈す。
- 下段8行目 を生じ、弱脈を呈す。 → を生じ、搏動が弱い弱脈を呈す。
- 下段10行目 桂枝救逆湯。 → 心陽不足で桂枝救逆湯。
- 下段11行目 半夏麻黄丸。 → 心下痰飲で半夏麻黄丸。
- 下段12行目 衄吐下血の証候（血証） → 衄吐下血の部位別の脈と証（血証）
- 下段14行目 面血色なく、寒熱なし。
→ 面に血色も寒熱もない者は衄血、煩咳する者は吐血する。
- 下段後ろから2行目 浮弱で絶す者は下血し、煩咳する者は吐血する。
→ 沈弦の者は衄血、浮弱で絶す者は下血する。
- p374 上段7行目 で太陽病、秋から冬に → で太陽経から、秋から冬に
- 上段8行目 裏証で陽明病が多い。 → 裏証で陽明経からが多い。
- 下段4行目 吐衄血 → 吐衄血（14、15条）
- 下段7行目 下血 → 下血（15、16条）
- 下段8行目 遠血、虚寒証 → 先便後血は遠血、虚寒証
- 下段9行目 近血、湿熱証 → 先血後便は近血、湿熱証
- 下段後ろから4行目 自覚的な腹満。 → 自覚的な腹満のみ。
- p376 2条 痰飲が残存している。 → 痰飲が残存しているからである。
- p377 25条 陽気が回復して下痢は止む。 → 陽気が回復すれば下痢は止む。
- 28条 汗ある者は治る。緊脈を現す者はいまだ治らない。
→ 汗ある者は治るが、緊脈を現す者は治らない。
- 32条 陰血不足の熱痢であり、 → 陰血不足の熱痢で、
- 34条 上は戴陽と下は虚寒で微熱が続く。 → 上は戴陽し下は虚寒して微熱が続く。
- p381 条文十七—3 脈乃チ虚ス。数ハ客熱為リテ → 脈乃チ数ス。数ハ客熱為リテ
- p387 上段6行目 厥陰病篇第三三七条からの転写で → 厥陰病篇第三七七条からの転写で
- 上段後ろから5行目 虚陽上浮といわれる現象 → 虚陽上浮といわれる真寒假熱の現象
- p408 下段1行目 禁忌 → 嘔吐の禁忌
- 下段12行目 胃反して嘔吐する → 胃反して嘔吐する者

- 下段後ろから 5 行目 [陰盛格陽] → [陰盛格陽の嘔吐]
- 下段後ろから 2 行目 乾嘔して下痢する → 乾嘔して下痢する者
- p409 下段 9 行目 前か後かどちらか通じ → 前陰か後陰かどちらか通じ
- 下段 11 行目 (尿不利) なら痰飲 → (尿不利) なら痰飲証
- 下段 12 行目 (便秘結) なら食積 → (便秘結) なら食積証
- p410 上段 6 行目 手足は寒え足縮む。 → 手足は寒え足が縮む。
- 下段 11 行目 陰盛格陽 → 陰盛格陽の戴陽証
- 下段後ろから 3 行目 下半身は虚寒。(34 条) → 下半身は虚寒する。(34 条)
- p411 上段 9 行目 裏寒外熱・汗出て厥す → 裏寒外熱・汗出て厥す者
- 上段 12 行目 下痢して膿血便 → 下痢して膿血便の者
- 下段 3 行目 下痢終わり、また発すは、 → 下痢終わり、再発するは、
- 下段後ろから 3 行目 利小便。 → 小便を利せ。
- p442 条文二十一 (方ハ利中ニ見ユ) → (方ハ利中〈嘔吐噦下利病篇十七ー36〉ニ見ユ)
- p446 下段 5 行目 人參湯加附子芍薬といった → 人參湯去甘草乾姜加茯苓附子芍薬といった
- p456 下段 5 行目 飲食不能あれば、悪阻の症状。妊娠六十日頃出現する。
→ 飲食不能があれば、悪阻の症状。悪阻は妊娠六十日頃出現する。
- 下段 7 行目 桂枝湯で陰陽調和。 → 桂枝湯で陰陽を調和させる。
- 下段 9 行目 三カ月前まで月経があり、 → 三カ月前までは正常に月経があり、
- p457 上段 9 行目 寒盛。 → 寒盛で子宮口が開いている。
- 下段 2 行目 小便難、飲食には → 小便難で、飲食には
- 下段 8 行目 血虚湿熱内鬱。 → 血虚で湿熱内鬱。
- 下段後ろから 4 行目 肺の水道不調。 → 肺の水道不調である。
- p461 12 条 邪が陽明経に入り頭痛を伴う者は、 → 邪が少陽経に入り頭痛を伴う者は、
- p468 条文二十一ー8 乾嘔シ、汗出デ、 → 乾嘔シ、汗出ズ、
- p475 下段 1 行目 汗出・心下悶乾嘔する。 → 汗出・心下悶し乾嘔する。
- p478 3 条 起こるのは熱入血室である。 → 起こるのも熱入血室である。
- p479 12 条 陷経で黒い血を下し、不正出血が止まらない婦人は、
→ 黒い血を下し、不正出血が止まらない婦人は、陷経である。
- p500 条文二十二ー19 飲食故ノ如ク、煩熱シテ → 飲食故ノ如カレド、煩熱シテ
条文二十二ー19 煩熱シテ臥スルヲ得ズシテ、 → 煩熱シテ臥スルヲ得ズ、
- 下段 6 行目 「飲食故ノ如ク」です。 → 「飲食故ノ如カレド」です。
- p505 上段 10 行目 三因により月経の不順や断絶を来す。
→ この三因により月経の不順や断絶を生じる。
- 上段後ろから 2 行目 広義の帯下病、非鬼神、月経不順、下腹冷痛、脛膝疼煩。
→ 広義の帯下病で情緒不安定、月経不順、下腹冷痛、脛膝疼煩など。

下段5行目 熱入血室 → 雑病の熱入血室

下段8行目 邪熱を少陽より和解す → 邪熱を少陽より和解する

下段後ろから2行目 夕方から譫語、 → 夕方から夜にかけ譫語、

下段最終行 月経終了を待つ。 → 月経終了を待つ。

p506 上段2行目 下血して譫語、 → 下血して譫語し、

上段12行目 涎沫を誤下して後、 → 涎沫あるを誤下して後、

下段3行目 積冷漏下して止まず。 → 積冷で漏下して止まず。

下段後ろから3行目 上焦に気滯と痰が停留する。 → 上焦に気滯と痰飲が停留する。

p507 上段2行目 大便燥結、 → 大便燥結し、

上段後ろから3行目 肝脾不和。 → 肝脾不和で腹痛。

下段1行目 陰陽気血諸不足、 → 陰陽気血皆不足、

下段9行目 に湿熱結聚。 → に湿熱が結聚する。

下段後ろから4行目 寄生虫性瘡病の幼児の虫歯。 → 幼児の寄生虫性瘡病の虫歯。

索引(5) さ行に追加 三黄湯……112(五-17)

朮附湯……114(五-18)

続命湯……111(五-16)

(6) た行に追加 当帰建中湯……472(二十一-13)